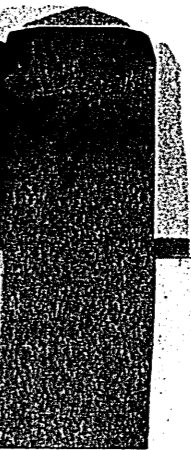




分類 1200.9/R3-1-2



本稿ハ昭和二年三月三十一日現在我參謀本部調査
ヲ土台トシ在哈爾濱總領事及在滿洲里領事ノ報告
ヲ參酌セルモノ

「ソヴイェト」聯邦ニ於ケル勞農赤軍ノ兵力ト配兵狀態
「ソヴイェト」聯邦ニハ昭和二年三月三十一日現在

狙撃師團	三〇
民兵師團	三二
臨時民兵師團	一〇
騎兵師團	一二
民兵騎兵師團	一
獨立騎兵旅團	六

支那政府 支那政府 支那政府
在北京市 在北京市 在北京市
(赤 粹 紙)

外務省

001

民兵騎兵旅團 一

存在シ其兵數五十六萬二千八百人ナルカ別ニ「ゲーバーウー」(國家
保安部)ノ軍隊凡ソ十三萬人在ルヲ以テ「ソヴイェト」聯邦常備
軍ノ兵力ハザツト七十萬人ナリ

配置狀態ハ「ソヴイェト」聯邦全境カ

一 莫斯科 軍管區

二 「レーニンград」

三 白露

四 小露 (ウクライナ)

五 沿「ヴォルガ」

六 北高梁索

(赤 粹 紙)

002

外務省

(赤梓紙)

七 獨立高梁索 軍管區
 八 中央亞細亞
 九 西伯利

三分タレ (附圖參看) 波蘭ニ面スル白蠟軍管區及羅馬尼亞ニ面スル「ウクライナ」軍管區ニ最モ力ヲ集中シ土耳其ニ面スル高梁索軍管區及獨立高梁索軍、波斯、「アフガニスタン」新疆省ニ面スル中央亞細亞軍管區ト次第ニ緩漫ニナリ「ウラル」山脈以東廣大ナル範圍ヲ有スル西伯利軍管區ニハ

狙撃師團 六
 民兵師團 一
 臨時民兵師團 一

外務省

003

(赤梓紙)

獨立騎兵旅團 二

存在シ其兵力ハ六萬ニシテ他ニ「ゲーペーウー」(國家保安部)ノ軍隊一萬人見當ナリ西伯利軍管區ニハ「ソウグホエト」聯邦全兵カハ一割強カ配置サレ居ル譯ナリ

極東ニ於ケル勞農赤軍ノ兵力ト配置狀態

西伯利軍管區ハ内「ハ」ハ「カ」ハ「ホ」以東ニハ

狙撃師團 三
 獨立騎兵旅團 二

其他歩騎兵増加隊 若干

存在シ兵力ハ三萬内外ナリ極東ニ於ケル配兵狀態ヲ狹義ノ西伯利ニ於ケル夫ト併セテ稍詳細ニ左ニ示スヘシ(便宜西ヨリ東ヘ向テ

外務省

004

駐兵總團ヲ列舉スヘシ附圖參看)

「オムスク」

第十二民兵師團

「ノツオシピルスク」

西伯利亞軍管區司令部

第二十一軍團司令部

第二十一狙撃師團司令部

第二十一狙撃師團

「クラスノヤルスク」

第二十六狙撃師團司令部

第二十六狙撃師團

(赤梓紙)

外務省

005

「イルクーツク」

第十二軍團司令部

第三十五狙撃師團司令部

第三十五狙撃師團

第四十九臨時民兵師團

「ウエルフネウウージンスク」

第五獨立騎兵旅團

第七十三騎兵聯隊

第七十四同右

第七十五同右

野砲兵中隊

(赤梓紙)

外務省

006

重砲兵大隊 一

鐵道隊 一

「グーバーウー」大隊 一

戰車隊 一

「トロイツコサフスク」

「ブリヤート」騎兵 若干

庫倫

「コサツク」騎兵中隊 二

因ニ在庫倫ノ赤軍ハ鐵道ノ協定ニ依リ二百五十人ヲ限度トシタル處在滿洲里當永大尉ノ護タル情報ニ據レハ近來六百人ニ増加シ居ル由（大正十五年六月在滿洲里田中領事報告）

(赤 梓 紙)

外 務 省

007

「テタ」

第十八軍團司令部

第三十六混成師團司令部

第三十六混成師團中第一〇五連隊司令部

隨砲大隊 一

騎兵砲大隊 一

重砲兵大隊 一

搜索飛行中隊 一

「グーバーウー」大隊 一

裝甲列車 一

「オロウヤンテヤ」

(赤 梓 紙)

外 務 省

008

(赤
梓
紙)

「グーペーウー」大隊 一
 「ボルデヤ」
 第三十六師團中隊一〇六狙撃聯隊
 「ダウリヤ」
 第三十六師團中隊一〇七狙撃聯隊
 砲甲列車 一
 騎兵中隊 二
 「ホルチンスク」
 「グーペーウー」歩兵大隊 一
 騎兵中隊 二
 「スレーヂェンスク」

外
務
省

009

(赤
梓
紙)

第三十六師團中隊一〇八狙撃聯隊
 「ブラゴウエシチェンスク」
 第二狙撃師團中隊六狙撃聯隊
 騎兵中隊 一
 「グーペーウー」大隊 一
 「ハバロフスク」
 第十九軍團司令部
 第二狙撃師團司令部
 第二狙撃師團中隊四狙撃聯隊中ノ一大隊
 同右第五狙撃聯隊
 砲隊大隊 一

外
務
省

010

榴彈砲大隊
 重砲兵大隊
 工兵中隊
 鐵道聯隊
 「グーペーツ」聯隊
 「イマン」
 第二狙撃師團中隊 狙撃聯隊（一大隊）
 「スパスコエ」
 第九獨立騎兵旅團中
 第八十七騎兵聯隊
 獨立山砲兵中隊

(赤梓紙)

011

外務省

自動車隊
 偵察飛行中隊
 「ニコリスク・ウスリスヤ」
 第一狙撃師團中第一狙撃聯隊
 第九獨立騎兵旅團
 第八十五騎兵聯隊
 第八十六騎兵聯隊
 其他
 裝甲列車 四
 「ボクランニーテユナヤ」
 裝甲列車 一

(赤梓紙)

012

外務省

外務省

「グーベーター」大隊

(赤梓紙)

014

外務省

「ラズドリーノエ」

第一狙撃師団中第二狙撃隊

騎兵中隊

榴弾砲大隊

浦潮新砲

第一狙撃師団司令部

第一狙撃師団中第三狙撃隊

輕砲大隊

第五風速飛行大隊

第九特別任務重砲兵隊

各種技術部隊

(赤梓紙)

013

極東ニ於ケル勞農赤軍ノ動靜

(以下參謀本部當局ノ説明ニ據ル)

○東漸ノ傾向アルコト

大正十五年四月頃ヨリ滿洲里方面へ幾分増兵ヲ行ヒタリ「チムノ騎兵隊ノ一部ヲ「ダウリヤ」ニ移シ「ニジニウージンスク」騎兵隊一部ヲ「チタ」へ移シタルハ特ニ顯著ナリ又「ブラゾウ」エシチエンスク」ヨリ若干ノ兵力ヲ哈府へ移シ哈府ノ若干ヲ「イマン」へ移動セシメ「イマン」ヨリ「スバスコエ」へ若干ヲ移シ更ニ「スバスコエ」ノ大部隊ヲ「ニコリスク、ウスリスヤ」へ移動セシメタリ(附圖參看)

○缺員ヲ賦歸ヨリ補充シタルコト也

(赤 梓 紙)

外 務 省

015

(赤 梓 紙)

「ウエルフネウージンスク」ノ重砲大隊ハ一時近中東方面(イ)へ出動シ居タルカ近時完全ニ賦歸ヨリ重砲大隊カ補充サレ居レリ

○一般ニ若干増兵シ居ルコト

何處ヨリ持チ來レルヤハ詳ラカナラサレトモ近來一帯ニ若干増兵サレタルコトハ事實ナリ前述滿洲里方面「ダウリヤ」ノ場合ノ如キ其ノ一例ナリ
極東ニ於ケル赤軍ノ最近ノ動靜(昭和二年三月末日現在)ニ付テハ前述ノ現象及毎年春施行サルル兵役關係者ノ點呼小部隊ノ移動演習等ヲ除キテハ特ニ變リタル現象ヲ認メス唯時局柄極東駐屯赤軍限リ(中央ノ指令トハ關係無ク)幾分緊張ヲ示シ居ル

外 務 省

016

ヘキコトハ想像ニ離カラス

(赤
梓
紙)

外
務
省

017

REEL No. A-0335

0474

アジア歴史資料センター

電信寫

3

16
(年三)

五一五二 暗 奉天 本省

四月十二日後着

亞

吉田總領事

020

第九〇號
滿洲里
發本官宛電報

第七號

當地實果大尉カ哈爾賓ヨリ接受セル電報。依レハ露支國交斷絶セ
リトノ事ナルカ事實御同電ヲ請フ當地一般人民ハ至極平靜ナルカ
右ニ關シ當地露國總領事ニ尋ネタル處同領事ハ七日附ノ「チヨル
ヌイフル」ノ抗議寫ヲ受ケタルノミニシテ何等報道ニ接シ居ラス露
國側トシテハ右抗議カ満足ノ回答ニ接セサル以上右様ノ措置ニ出

ツル事無シトモ限ラサルモ多分事實ニ非サルヘシト思ハルル旨尙
本官ノ問ニ對シ露國軍隊カ積極行動ヲ執ラントシツツアリトカ沿
線ニ露國軍人カ入り込ミ居ルトカノ風説ハ事實無根ニシテ國境ノ
軍隊ハ從來通りナリト打消シ居レリ支那司令部モ新聞側所報ニ依
レハ未タ何等電報ヲ受ケ居ラス今般北京ノ事件ヲサヘ知ラス何等
ノ準備モ對策モ無キ由尙情報ニ依レハ九日夜自動車二臺「ソヴェ
ット」領事館ヨリ重要書類ヲ滿載シテ露國ニ運搬セリト
外務大臣ヘ轉電アリタシ
在支公使。奉天ヘ轉電セリ

4

陸軍
参謀

電信寫

多ニ

五四一五 暗

哈爾濱
本省

四月十七日前着

天羽總領事

第九九號

幣原外務大臣

十六日市政管理局長兼市長備領及市自治會長等張喚相ノ命ナリト
 テ本官ヲ來訪シ目下時局ノ爲人心動搖シ銀行ハ貸出ヲ差控ヘ居ル
 趣ナル處目下何等不安ノ氣配ナキノミナラス局、張問ニ於テ責任ヲ
 以テ秩序ヲ維持スヘキニ依リ安心方各國領事及在留民ニ周知セラ
 レ度旨依領アリ尙同日勞農機關紙ハ莫斯科公報トシテ國境軍隊集
 中若ハ出兵準備説ハ全然無根ニシテ支那ニ於テ何等敵對的計畫ナ
 キ旨ヲ報道セリ 在露大使、在支公使、奉天へ轉電セリ

霧子

土

021

電信寫

5

修
知
修
知

二

五四六二

暗

齊々哈爾
本省

四月十七日後着

亞

幣原外務大臣

清水領事

第一三號

露支關係ニ關シ省内一帶ニ極メテ平穩ナリ督軍署參謀長ノ語ル處ニ依レハ滿洲里、黑河其他國境方面ヨリノ報告ニテハ今日迄ノ處露領側ニ於テ何等ノ移動行ハレ居ルモノナキモ省政府トシテハ國境軍憲ニ對シ充分警戒方嚴命セリ但シ未タ國境方面ヘ向テ増兵セストノ事ナリ當地露國領事モ旅行等ハ差控ヘ時局ノ推移ニ注意シ居レルモ戰爭等ハ豫期シ居ラサルモノノ如シ只今(十六日午後五時)王交渉署長ヨリ聞ク處ニテハ海拉爾鎮守使ヨリ増兵方上申シ

來レルモ理由明カナラストノコトナリ思フニ右ハ唯要心ノ爲ニ増兵方申出タルモノニシテ特ニ露國側ニ於テ軍事行動ノ表ハレタルモノニハアラサルヘシ
公使、奉天、哈爾賓、滿洲里ヘ轉電セリ

務
文

土

022

亞細亞局

第二課

支那側小隊隊長

機密公第八九號

昭和貳年四月廿五日 接受

昭和二年四月十八日

在 長 春

領 事 栗 原

正



外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

露支關係ト支那側ノ軍隊配備ニ關スル件

北京ニ於ケル露國大使館搜查ニ引續キ露支國交斷絶等ノ情報ニ依リ
當地方ニ於テモ奉天哈爾濱同様ノ謠言或語行ハレ一時人心動搖ノ兆
アリシモ其ノ時日ノ推移ト共ニ對露關係モ別段ノ進展ヲ見サルヲ以
テ自然人心モ平穩ニ向ヒタル處當地支那官憲ニ於テハ大体ニ於テ樂
觀シ專ラ民心ノ慰撫ニ努メ終始冷靜ナル態度ヲ持シツ、アリ然レ共

在長春日本帝國領事館

Cf. 61223
508.1271

023

萬一ノ場合ニ備フル爲奥地交通不便ノ地勢方ニアル軍隊ヲ出來得ル
限リ交通便ナル中心地方ニ集中セシメ又南方出征中ノ吉林軍ヲ補充
スル爲軍隊ノ改編並ニ募兵ヲ爲シツ、アルハ事實ナルカ如ク現ニ當
地第八旅所屬ノ第十三、四兩團ノ如キハ奥地方ヨリ當地地方ニ集中
セシメツ、アリ又聞ク所ニ依レハ吉林警備隊ヲ以テ一旅ヲ編成シ新
ニ募兵スル一旅ト合シ一師ヲ新設スルコト、ナリ之カ師長トシテ現
濱江鎮守使丁超又ハ張煥相ヲ擬シツ、アル趣ナリ尙當地警察ノ調査
ニ依レハ支那側ニ於テハ吉黑兩督辦協議ノ結果黑龍江軍ハ總司令部
ヲ昂々後ニ置キ吳督辦自ラ總司令トシテ之ヲ指揮シ全軍司令部ヲ海
拉爾ニ置キ呼倫鎮守使梁忠甲ヲ司令トシテ第一線警備ニ當ラシメ吉
林軍ハ總司令部ヲ長春ニ置キ張督辦ヲ總司令トシ又前軍司令部ヲ哈
爾濱ニ置キ丁鎮守使ヲ司令トシテ哈爾濱以東々部線ニ當ラシメ別ニ
延吉鎮守使吉興ヲシテ同地駐屯第十三旅ヲ以テ同地方ノ國境警備ニ
當ラシムルコト、ナリタリト云フ

在長春日本帝國領事館

024

而シテ現在兩省内ニ在ル常備軍ノ數ハ吉林軍約三萬八千黑龍江軍約二萬（外ニ一萬八千ノ警備隊アルモ右ハ專ラ省内警備ニ充ツル爲最近急編シタルモノナリ）アルモ護路軍ヲ除ク外ハ多ク鐵路沿線ヨリ遙ニ距リタル地方ニ一營又ハ一連宛分駐シテ專ラ匪賊ノ警備討伐ニ從事シ居ルモノニシテ過半ハ到底現駐地ヲ離レ難キ事情アリ之カ急遽集中ハ困難ナリト云フ

右何等御參考迄ニ報告ス

本信寫送付先

在支公使 奉天 哈爾濱 吉林各 間島各總領事

在長春日本帝國領事館

025

7

電信寫

佐へ
電

五五五五 暗

奉天 本省

四月十九日後着

亞

吉田總領事

026

原友

滿洲里發本官宛電報

第一〇五號

第一〇號

外務大臣へ轉電アリタシ

第一五號

在齊々哈爾濱事發實大臣宛電報第一三號末段ニ關シ

當地海關長ノ談ニ依レハ當地支那司令部ハ四月十五日支那各官憲

代表者大會議ヲ開キ當方面ノ警備ヲ充實スル爲ニ千人ノ増兵ヲ爲

ス事及ソツイエト關陰謀中ノ一項ト稱セラルル燃料ノ供給杜絶ニ

關スル策トシテ東支經營ノダイヤノール炭ノ採炭量増加ノ方法ヲ

講究ノ件等ヲ決議セル由ナリ

右ハ今回ノ事件ヲ機トシテ當地官憲トシテ執リタル對策ナルモ國

境ノ平靜ハ其程迄ニ切迫シ居ルトモ思ハレス人心モ落付キ市内平

靜ニシテ支那側ノ警戒モ嚴重ナラス

公使、奉天、哈爾濱、齊々哈爾へ轉電セリ

電信寫

陸軍部

二九 五六一五 暗

本 滿洲里 省

四月廿日後着

亞、歐

土

田中外務大臣

田中領事

第一六號

今回ノ事件ニ關シ國境露軍ノ狀況調査ノ爲四月十二日「ボルジヤ」迄派遣シタル白系露人十七日歸滿セルカ其ノ報告ニ依レハ「ダウリヤ」ニハ歩兵第百六及百七ノ兩聯隊四月一日ヨリ十一日迄ニ齊多ヨリ來着セル騎兵第七十五聯隊（ピシカク第九國境聯隊）歩兵二箇中隊野砲十二門其ノ外四月始メ來着セル野砲三十六門「ソウコロ」ニアリ

第五十三國境「ゲーベール」隊約八十名飛行機一臺アルノミニ

シテ支那兵及裝甲車無シ「ボルジヤ」ニハ兵無シ「チロビヤンナヤ」ニハ百五十人ノ「ゲーベール」兵裝甲車ト共ニ鐵橋ヲ守備ス師團司令部ハ齊多第十八軍團司令部ハ「イルクウツク」ニアリトノコトナリ

右情報ニハ從來ノ情報ト異リ「イルクウツク」方面ヨリ移動シ來レリト稱スルモノナク騎兵聯隊ハ「ジユウズン」ヨリ來タル報道アリ若シ今回齊多ヨリ移動シ來レルモノトセハ一時「ダウリヤ」ヲ離レタルモノト思ハル格別ノ變化ヲ認メス尙情報ニ依リハ「ダウリヤ」駐屯兵ハ八日以來夜間處本々本時隊集ヲ行フ同地出入ヲ取消シ非營ニ歸重キリ團員九人不明ト一隊人十人支那軍等ヲ捕獲シ種々ノ報告ナリ

重文、語多
露文、一也
常言道

尙「コロンバイル」現在ノ支那軍隊ハ滿洲里及其ノ附近ニ步兵六
箇大隊及砲兵一箇中隊海拉爾ヨリ大興安嶺迄ノ間ニ步兵二箇大隊
及二箇中隊機關銃十一挺ニシテ前記露軍ト對照スレハ兵數ニ於テ
モ武器訓練ニ於テモ露軍ハ優勢ナリ

奉天、哈爾濱、齊々哈爾濱ハ專電ナリ

四月廿三日陸軍
省阿部軍務
局長及参謀
中野旅長等
部長に送付
ス

五六一五暗 滿洲里 四月二十日後着

田中外務大臣

田中領事

第一六號

今回ノ事件ニ關シ國境露國ノ狀況調査ノ爲四月十二日「ボルジヤ」迄派遣シタル白系露人十七日歸滿セルカ其ノ報告ニ依レハ「ダウリヤ」ニハ歩兵第百六及百七ノ兩聯隊四月一日ヨリ十一日迄ニ齊多ヨリ來着セル騎兵第七十五聯隊（ピンクカク第九國境聯隊）歩兵一箇中隊野砲十一門其ノ外四月始メ來着セル野砲三十六門「ソウコ」ニアリ

第五十三國境「ゲーペーウー」隊約八十名飛行機壹臺アルノミニシテ支那兵及裝甲車無シ「ボルジヤ」ニハ兵無シ「チロビヤンナヤ」

外務省

(赤 梓 紙)

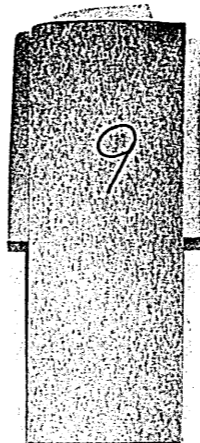
ニハ九百五十二人ノ「ゲーペーウー」兵裝甲車ト共ニ鐵橋ヲ守備ス師團司令部ハ齊多第十八軍團司令部ハ「イルクウツク」ニアリタリトノコトナリ

(赤 梓 紙)

右情報ニハ從來ノ情報ト異リ「イルクウツク」方面ヨリ移動シ來レリト稱スルモノナク騎兵聯隊ハ「ジユウズン」ヨリ來タル報道アリ若シ今回齊多ヨリ移動シ來レルモノトセハ一時「ダウリヤ」ヲ離レタルモノト思ハル格別ノ變化ヲ認メス

尙「コロンバイル」現在ノ支那軍隊ハ滿洲里及其ノ附近ニ歩兵六箇大隊及砲兵一箇中隊海拉爾ヨリ大興安嶺迄ノ間ニ歩兵二箇大隊及砲兵一箇中隊機關銃十一挺ニシテ前記露軍ト對照スレハ兵數ニ於テモ武器訓練ニ於テモ露軍ヨリ優勢ナリ

外務省



外務省
通商局

512.711

亞細亞局

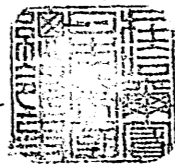
機密第二九〇號

昭和二年四月二十日

昭和二年四月二十八日接受

在 哈 爾 濱

總領事 天 羽 英



外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

露支國交ノ不安ニ件フ支那官憲ノ警戒ニ
關シ報告ノ件

本月十六日ノ當地支那官憲機關紙哈爾濱公報ハ支那官憲ニ於テハ此際
入露支那人ノ旅券發給ヲ嚴禁スヘキコトト爲シタル旨ヲ報シタルカ他
方勞農總領事館ニ於テハ支那人ニ對シ依然旅券ニ查證ヲ與フヘキ旨言
明セルカ故ニ館員ヲシテ支那官憲ニ真相ヲ確メシメタルニ右ハ身分確

在哈爾濱日本帝國總領事館

(已覽用紙)

實ニシテ入露後彼地軍隊ニ關係スルノ危險無ク又過激思想ニ感染ノ虞
無キ場合ハ引續キ旅券ノ發給ヲ爲シ一概ニ支那人ノ入露ヲ禁止セル調
ニアラストノコトナリシモ國境視察者ノ談ニ依レハ四月十三日ヨリ支
那人ノ入露ヲ禁止セル由ナリ右取締ノ動機ニ就テハ種々ノ瞭アルカ當
地陸軍特務機關ノ得タル情報ニ依レハ莫斯科市内竝一チタート「ダ
リヤ」ノ間ニ於テハ公然支那人義勇兵ヲ募集シツツアリトノコトナ
ル故支那官憲ニ於テハ入露支那人カ赤軍ニ參加スルヲ虞レタルモノナル
ハキカト察セラルサレト廣汎ナル地域ニ亘リテ接壤セル露支國境ノ
トトテ事實取締ハ困難ナリト謂フ
當哈爾濱ニ於テモ支那官憲ハ特ニ支那人ニ對シテ警戒ヲ加ハハ戶別調査
ヲ行ヒ十五日ヨリ露支人發着郵便物ノ檢閲ヲ開始セルカ本月十七日又

在哈爾濱日本帝國總領事館

033

032

(已読用紙)

々別信ノ如キ帝國主義打破軍閥打倒ノ宣傳文ヲ配布セル者アリタル
 爲警戒一層嚴重トナリ十七日ニ三名ノ嫌疑者ヲ檢舉シ十八日ニ四名
 九日ニ十二名合計二十一名ヲ逮捕シタルニ其内一名ハ當地特別區警務
 處督察員ナリシト謂フ又最近滿洲里護路軍司令部カ赤軍用靴二千足
 抑留取調ニ端緒ヲ得當地著名ソ露人靴商ヨリ多數ノ靴ヲ押收シタリ
 他方支那側ノ軍備ニ關シテハ種々ノ情報傳ハルカ十八日宴會ニ於テ長
 綏護路軍總司令兼陸軍第十八旅々長兼濱江鎮守使丁 超ニ落合ヒタル
 故打合ヲ遂ケ十九日藏本書記生ヲ同司令ノ許ニ派シ事情聞合ス處アリ
 タルニ同司令ハ概要左ノ如キ談話ヲ試ミタル由

一、北京勞農機關搜查事件以來露支關係緊張シ一時ハ非常手段ニ移ル
 キカト憂慮サレタルモ其後露西亞側ニ大兵ヲ動カシ能ハサル内情判

在哈爾濱日本帝國總領事館

03034

(已読用紙)

明シタルカ故ニ支那側ハ各縣ニ有スル保衛團ヲ正規軍ニ編入シ保衛
 團補充ニ新規募集ヲ爲スコトニ手配セシモ未タ着手シタルニ非ス必
 要トアラハ現在ノ兵員ヲ要處ニ集中スル迄ニテ今俄カニ國境ニ軍ヲ
 動カス程ノコト無ク動員ニ因テ露西亞側ヲ騷カシ事態ヲ惡化セシム
 ルヲ欲セス

二、當地方支那官憲ノ敵ハ馬賊ト南方宣傳員ナルカ勞農側力之ヲ利用シ
 連絡セムトスルハ事實ラシキ故充分ノ注意ヲ拂ヒツツアリ最近「ボ
 グラ」ニ於テ勞農電信技師ノ手ヨリ暗號ヲ押收シタルカ之ヨリ彼等
 ノ行動ニ關シ相當ノ手係リヲ得ヘキカ

三、東支鐵道勞農側罷業ノ場合ノ準備ハ十分アリ目下内々列車ノ運轉
 從事スヘキ人員ヲ整ハ車輛ノ如キモ南部線募集ル手筈ナリ露人ノ

在哈爾濱日本帝國總領事館

035

(已覽用紙)

集合モ二十人以上ニ上ル時ハ警察ニ於テ干涉シツツアルカ故ニ大規模ノ團體運動ハ出來サルハシ又勞農側トシテモ此際東支鐵道問題ヲ起スコトヲ不利ナリトシテ東支罷業或ハ占領ニ移ルカ如キ希望ヲ有セサルモノノ如シ尙武器トシテモ勞農領事館ニ所有スルモノノ外繼リタルモノ無ク領事館ノ所有數モ多數ニ非サルハキニツキ武器ノ方面ヨリ見ルモ心配無シ云々

右何等參考迄ニ報告ス

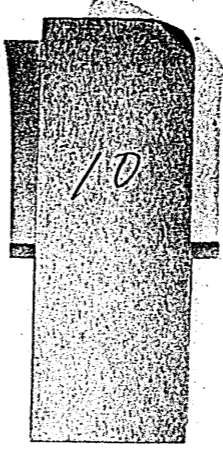
本信寫送附先

在露大使 在支公使 在奉天吉林各總領事

在長春、齊々哈爾、滿洲里各領事

在哈爾濱日本帝國總領事館





昭和局長
明書

676.20
676.10212
676.111

西郷重局

機密公第一二二號

昭和貳年四月廿六日

昭和貳年五月四日 接受

在滿洲里

領事

田中文一 郎



外務大臣男爵 田中義一 殿

入露支那人取締ノ関スル件

四月六日當地特區警察署長 四月十一日當地東省鉄路々警第二段長ハ近來露領ニ於テ支那人ヲ以テ軍隊ヲ編成シツ、アルヤノ説アルニ関聯シ支那人ノ入露ヲ取締ルヘキ旨佈告シ特別第五區警察署ノ許可

在滿洲里日本領事館

037

アリタルモノニ限り出境ヲ許可シ居リシカ十四日哈爾濱特區警察署ヨリノ指令ニ依リ特ニ在哈爾濱交涉員發給ノ執照所持者ニ限り前同様ノ手續ヲ經テ出境ヲ許スコト、ナリ之ト共ニ特區警察路警及軍憲ヨリ各專員ヲ設ケ執照検査ヲナサシメ路警刑事係「パトロ」ヲ派滿シ之ヲ指導シ尙多數ノ刑事ヲシテ露國へ出入スル列車發着ノ際監視スルト共ニ市内ニ於ケル外來者ニ對シテモ監視ヲ加フルコト、シニ三月ハ更ニ八名ノ特務刑事哈爾濱ヨリ來滿セル趣ナリ

但シ今日迄拘引セラレタルモノ等無キ模様ナリ
支那人ノ當地ヨリ入露セルモノハ本年一月ヨリ三月迄ニ約三千人ト稱セラレ多キハ一列車ニ五百人モ達シタルコトアリ右取締後ハ數名ニ過キス

在滿洲里日本領事館

038

右入露支那人中ハ南方人多ク露領ニ支那軍隊アルモノ情
報アリタルヲ以テ四月一日當地ソウエト領事ト會談ノ際民
ニ尋ネタルニ是等支那人ハ職工及苦カニテ露國ニ於テハ今
々建築期初マリ莫斯科其他ニ家屋ノ建築ヲセシメテ工
道建設等ニテ此種勞働者ノ需要相當ニアリ且ソ草細工
其他ノ細工職人モ勞働銀良クニ説アリテ自然入露ヲ志ス
レルモノ如ク當地領事館トシテハ「ナク」以東ニ赴クモノニ對シテハ
地方的入國者トシテ自今限ニテ入國ヲ許シ其他ハ莫斯科
ハ照會シタル上ニテ査証ヲ與ヘ居レル旨答ヘタリ
又實際入露セントスルモノニ就テ聞合セタル所ニ依リハ是等ハ
多ク山東人ニシテ職ヲ求メテ入露セントスルモノニシテ内ハ新疆
方面ノ景氣ヨキ由ヲ聞キ同地方ニ赴ク爲メ西伯利亞鐵道ニ
依ル者少ナカラス同地方ニ鴉片及棉花ノ栽培有望ナル

在滿洲里日本領事館

由ナリ
當方面露領ニ在ル支那人ノ状況ニ就キテハ「ダウリヤ」兵營修繕
工事ニ從事セントスル大工職人約百人「ナク」約百人「ウセル」
「ウヂンスク」約八十人「コイル」約百五十人位ニシテ之等ハ小
商人ニシテ當地ノ密輸入商人ト連絡スルモノ多キカ如シ
支那人軍隊編成說ニ因リテハ拙電報告以外ニ右支那商人等
モ右様兵士ヲ見サル旨語り居リ右軍隊存在說ノ根據頗薄
初ナルカ引續キ取調中
尚一時南方ヨリ來レル勞働者多ク入露制限ノ爲メ市中ニ是
是等職ナキ者ノ充満スヘキヲ憂フルモノアリタルモ一方哈爾濱方面ニ
於テモ取締ヲ加ヘ居リ他々地方勞働者等カ「タルバガン」捕獲ノ
爲メ内地ニ出掛ヒタル爲メ何等著シキ現象ヲ齎ヤス從テ是
等ノ暴動騒ノ如キ今ノ屬豫想シ難シ

在滿洲里日本領事館

右報告申進ス

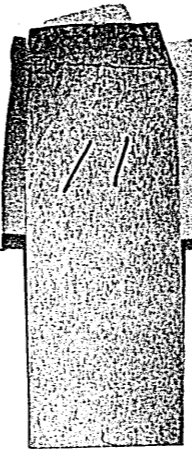
本信字送付先

在支公使

在奉天哈爾濱總領事

在滿洲里日本領事館

041



秘

最近歐露方面ヨリ義勇兵ヲ東方ニ送リタリトノ報道アル處右ニ關シ
 參謀本部當局ノ語ル所左ノ如シ（四月二十八日）
 「ソヴイェト」聯邦義勇兵約二千名歐露方面ヨリ「ザバイカル」
 方面ニ輸送サレタルコトハ事實ナリ唯其行先ハ不明ナルモ諸般ノ
 事情ヲ綜合スルニ「ザバイカル」ノ「ボルヂヤ」ヨリ外蒙古ノ「サ
 ンペース」ニ赴キ更ニ「ハイラル」又ハ洮南方面ニ配屬セシメラ
 ルルニハ非サルカ右「ソヴイェト」聯邦義勇兵配置ノ動機ハ想フ
 ニ北京事件以來支那側ノ鼻息荒ク支那人ノ「サイコロジ」トシ
 テ此儘ニ棄テ置ケハ懸テハ支那側ノ東支鐵道武力回收ニモ立至リ
 乘ネマシキ形勢ナルニ依リ「ソ」聯邦ニ於テハ此際何トカシテ支
 那側ヲ脅威スル必要ヲ感シ居ルハ想像ニ難カラサルモサリトテ諸

密

(赤梓紙)

外務省

042

般ノ關係殊ニ日本トノ關係ヲ考慮スル時ハ北滿東支沿線ニ兵力ヲ
 進メ直接ニ支那ヲ脅威スル譯ニモ行カサレハ北滿ニ接スル諸地點
 ニ義勇兵等ヲ配置シ以テ支那側カ東支鐵道ノ武力回收ト謂フ如キ
 暴舉ニ出ツルコト無キ様之ヲ牽制セムトスルニ在ルモノト觀測ス

(赤梓紙)

外務省

043

12

齊々哈爾東
電報一三三
ヲ以テ概
移ヨリ

46.501.7112
612A.00B

亞細亞局

本機密第一一七號

昭和二年四月二十八日

昭和貳年五月五日

在齊々哈爾

領事 清水 八百

外務大臣男爵 田中義一 殿

露支關係ニ對スル舊省ノ警戒ニ關スル件

本件ニ關シテハ往電第一三號ヲ以テ概要及報告置キタル處江省政府側ニ於テハ引續キ黑河滿洲里等國境方面ノ警戒ヲ嚴ニシ何等異狀アラハ直ニ電報スヘキ旨命令シ居レルカ省內一般人心ハ依然至極平穩ニシテ國境方面ニモ何等異狀ナキ模様ナリ
江省政府ハ露支關係其他時局問題ニ關シ北京ハ勿論奉天方面ヨリモ何等情報若シクハ訓令ニ接セス總ニ新聞ノ報道ニヨリ時局ノ推移ヲ承知スル位ニシテ權威アル材料ヲ有シ居ラサルモノナルモ省政府筋要人ノ最近

在齊齊哈爾日本帝國領事館

露支問題ニ對スル觀察ハ

露國ハ國內ノ未タ安定セサルト日本ノ反對アルヘキヲ恐レテ北滿ニ出兵シ得サルヘシ

ト爲スニ略ホ一致セルモノノ如シ
前記ノ國境ノ警戒ヲ嚴ニセリト稱スルハ出入ノ旅客ヲ從來ヨリモ嚴重ニ検査シ又露領館ニ於ケル軍隊ノ移動ニ注意スル位ノモノニシテ未タ國境方面ニ増兵ヲ行ヒタル等ノ事實ナク過般海拉爾鎮守使ヨリ増兵方電稟シ來レル(前顯往電第一三號參照)モ省政府ハ之ニ對シ考慮中ト回答シ増兵ヲ見合セ居レリ尤モ興安嶺ノ陸道及嫩江鐵橋ニ對シテハ萬一ヲ慮リ從來ヨリモ多少守備ヲ嚴ニシ又新設旅團(本月十二日附本第一〇二號參照)ノ編成ヲ急キツツアリ
他方當地一般軍隊ノ様子ヲ見ルモ從來ト何等異ナルコトナク兵員ノ訓練、兵器ノ手入、軍需品ノ用意等何等行ハレ居ル模様ナシ
當地露國領事モ時局ノ推移ニハ注意シ旅行等ハ差控ヘ居レルモ(同領事ハ本月十日前後小官ト共ニ昂洮線ノ視察ニ出掛クルコトトナリ居リシモ

在齊齊哈爾日本帝國領事館

045

044

(已號用紙)

時局ノ爲メ延期方申出テタリ(依然戰爭等ハ豫想シ居ラサルモノノ如シ
 當地支那側ノ入手セル露領側ニ於ケル軍隊ノ移動トシテハ最近ニ約二箇
 聯隊ノ兵士「デタ」方面ヨリ「ゲウリア」ニ移動シ來レルコトナリ右ハ
 在滿洲里田中領事發本省宛電報第五號中ニ記載セルモノト同一ノモノナ
 ルヘシ

其外于省長ハ一日 小官ニ對シ外蒙方面ヲ警戒スルタメ桑貝子方面ニ少
 數ノ軍隊ヲ派遣スルコトナレリト語レリ

尙ホ張督軍署高級參謀カ黑龍江軍ノ對露作戰想定ニ關シ最近早川滿鐵公
 所長ニ内話セル所左ノ如シ

一 滿洲里方面ニ對スル大體ノ作戰想定

赤軍滿洲里ニ侵入スル場合ニハ滿洲里駐防部隊ハ鐵道ヲ破壞シツツ
 海拉爾ノ線ニ退却海拉爾駐防部隊ト協同防禦ヲ爲シ萬一ノ場合ハ興
 安嶺ノ線ニ退却中央部隊トナリ左右兩翼ハ昨年來日本トノ共同作戰
 計劃ニ對スル調査ニ基キ省城及對露作戰ニ直接關係ナキ騎兵ヲ派遣
 シテ防禦ニ當ラシムルコト

在齊齊哈爾日本帝國領事館

046

(已號用紙)

ニ 炸藥隊ノ編成

前項想定通り退却ノ場合東支鐵道ヲ破壞スル爲メ炸藥隊二箇連ヲ編
 成ス

三 外蒙ニ派兵

時局ノ進展ニ應ヒ若干ノ騎兵營ヲ外蒙桑貝子街道ニ沿フテ桑貝子ニ
 前進セシムル豫定

四 調査員派遣

滿洲里海拉爾桑貝子ニ街道上ニ於ケル彼我軍情調査ノ爲メ二十六日
 國防 辨所員及第十八師司令部員數名ヲ同方面ニ出發セシムル豫定

右報告ス

本信寫送附先 在露大使 在支公使 奉天、哈爾濱、吉林各總領事
 滿洲里、鄭家屯、長春各領事 關東廳 安藤公館

在齊齊哈爾日本帝國領事館

047

13

機密第九六號

昭和二年四月三十日

在局子街 副領事 近藤信一

外務大臣男爵 田中義一殿

沿海州ニ於ケル赤軍ノ行動ニ關スル件

本件ニ關シ當館警察署長報告左ノ通り

本件ニ關シ諜者ノ齎ス處ニ據レハ琿春縣春化郷土門子駐屯東北陸軍第十三旅第二十九團第二營長王玉振ヨリ所屬第二十九團長ニ對シ電話報告要旨左ノ如シ

支

(赤梓紙)

外務省

048

記

一 赤露カ最近極東露領ニ兵員集中シ居ル報ニ接シタルヲ以テ之カ事實内查ノ爲東支沿線ニ稽查員ヲ派遣内查セシメタル狀況次ノ如シ

ニ 沿海州ニ駐屯セル兵員中ハバロスク駐屯騎兵聯隊中二個中隊ヲニコリスクヘニコリスク駐屯步兵聯隊ヨリ二個中隊ヲハバロスクニ

各配置變更セリ

ニ 沿海州ニ駐屯セル現在兵力ハ浦潮ニ一個師團ニコリスクヘ步兵一個聯隊イマンヘ步兵二個中隊騎兵一個中隊ハバロスクヘ步騎各一個聯隊アリテ奥地ヨリ更ニ増派ノ模様ナシ

四 本月初旬沿海州ニ於テ軍事教育^ノ爲召集セル豫備兵約二千名ハ浦潮及ニコリスクノ各兵營ニ收容セリ

(赤梓紙)

049

外務省



(赤
梓
紙)

本月九日(四月九日)ヨリ前記各軍隊ノ總動員ヲ行ヒハバロスク
及ニコリスク地方ニ於テ機動演習ヲ實施シツツアルカ之レハ即チ
我軍(支軍)ニ對スル示威行動ナルモノノ如ク認メラル
六東支鐵道沿線(浦潮ヨリ東寧縣國境迄)各停車場ニハ中國人タル
共產員ヲ以テ組織セル便衣隊約百三十名ヲ配置シ警戒ノ任ニ當ラ
シメ居レリ

七本月九日ヨリ同十一日迄三日間東支沿線露人鐵道従業員ヲシテ軍
隊ニ編入之レニ關スル豫備教育ヲ爲シタル由
八東支沿線各驛ニハ銃器彈藥及爆彈等ヲ滿藏シ戰鬪準備ニ忙殺サレ
ツツアル模様ナルヲ以テ本職ハ在東寧縣我守備軍トノ聯絡ヲ一層
緊密ニシ彼等赤軍ノ行動ヲ嚴重監視中

外
務
省

050

(赤
梓
紙)

右聞込ノ儘御參考迄報告ス

051

外
務
省

大臣



次官

Handwritten notes and signatures in the top right margin.

14

臣細野長

大

第一課甲

(赤 梓 紙)

最近露支國境方面ニ於ケル勞農軍隊ノ動靜ニ關スル件

(昭和二年五月五日亞細亞局第一課調)

Main text block on the right page, detailing military movements and diplomatic relations between Japan and Russia in Manchuria.

052 (記)

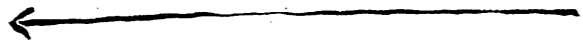
外務省

(赤 梓 紙)

Main text block on the left page, continuing the report on military movements.

053

外務省



(一) 國境方面ニ於ケル勞農軍隊ノ配備狀況

四月中旬「ボルヂヤ」ニ於テ國境露軍ノ狀況ヲ調査セル白系露人ノ報告ナリトテ在滿洲里田中領事ノ電報スル所ニ依レハ

(イ) 「ダウリヤ」ニハ歩兵第百六及百七ノ兩聯隊四月一日ヨリ十一日迄ニ「チタ」ヨリ來着セル騎兵第七十五聯隊砲兵二箇中隊野砲十二門其他四月初來着セル野砲三十六門並ニ第五十三國境「グーバーウー」隊約八十名飛行機一臺アリ(但以上ノ外最近國境步兵一聯隊並露都ヨリ露人義勇兵同地ニ到着セル旨ノ報道アルハ後述ノ通ナリ)

(ロ) 「ボルヂヤ」ニハ兵無シ(但最近露人義勇兵露都ヨリ同地ニ到着セル報道アルハ後述ノ通ナリ)

(赤梓紙)

054

外務省

(赤梓紙)

055

(イ) 「チロンヒヤンナヤ」ニハ約百五十名ノ「グーバーウー」兵裝甲車ト共ニ鐵橋ヲ守備セリト云フ



外務省

(二) 勞農義勇軍ノ東方輸送説

最近露都ニ於テ支那行義勇兵ヲ募集セリトノ情報アリタル處四月上旬約一週間ニ亘リ連續シテ毎夜露都ヨリ約三百名ノ義勇兵東方西伯利亞方面ニ向ケ出發シ其總數約二千名ニ及ビタルカ右義勇兵ハ「チタ」ニ約一千名「ボルヂヤ」及「ダウリヤ」ニ約七百名到着セル趣ノ報道アリ之等ハ「ボルヂヤ」方面ヨリ外蒙古ノ「サンベース」ニ赴キ更ニ海拉爾又ハ洮南方面ニ配屬セラルルモノノ如ク右ハ勞農側ニ於テ北滿東支沿線ニ兵力ヲ進メ直接支那ヲ脅威スルハ諸般ノ關係殊ニ日本トノ關係ヨリ至難ナルヲ以テ北滿ニ接スル地點ニ義勇兵ヲ配置シ以テ支那側カ東支鐵道ノ武力回收ト謂フカ如キ暴舉ニ出ツルコトナキヤウ之ヲ牽制セムトスルモノナリト觀測スルモノアリ

(赤 梓 紙)

外 務 省

(三) 支那人義勇軍ノ編成説

本年ニ入り支那勞働者ノ滿洲里ヲ經テ入露セル者多數ニ達シタルカ勞農側ニ於テハ四月中旬「チタ」「ダウリヤ」附近ニ於テ公然支那人義勇兵ヲ募集セル旨ノ報道アリ支那官憲ニ於テモ入露支那人ノ赤軍參加ヲ悞レタルモノニヤ四月十四日支那人ノ入露ヲ禁止セル由ナルモ入露支那人ノ一部ハ既ニ赤軍ニ勤務セル趣ニシテ(イ)「イルク」附近ニ於テ國際歩兵一聯隊(大隊三、機關銃四六、擲彈銃三一、同聯隊所屬員ハ五割ノ割増手當ヲ支給セラルル由)編成セラレ其ノ大部分ハ支那人ニシテ同聯隊ハ最近「ダウリヤ」ニ到着セル趣ナリ(ロ)「チタ」「ダウリヤ」間ニハ南方支那人約一千名ノ獨立部隊(ハ)「ノゾオシビルスク」ニハ支那兵旅團存在スト報セラル

(赤 梓 紙)

外 務 省

極東方面へ兵力ハ東送

一、義勇兵ノ東送

「ハリコフ」ニ於テハ二月初旬ヨリ一般民特ニ在郷將校參謀將校ニ對シ支那行義勇兵ヲランコトヲ勸誘シツツアリシカ四月ニ入り露都ニ於テ之ヲ始メ四月初旬約一週間ニ亘リ毎夜莫斯科郊外「プリヤンスク」停車場軍用「ホーム」ヨリ約三百名宛ノ義勇兵ヲシキモノ（武器ヲ携行ス）ヲ輸送セリ其總計ハ約二千名ニシテ其内約千ハ知多ニ約七百ハ「ボルジヤ」「ダウリヤ」ノ兵營ニ入レリ

ニ、支那軍隊ノ編成

四月中旬以來後貝加爾ニ於テ支那人軍隊ノ編成中ナリシカ知多ニ於テ編成セラレタル支那軍隊（鮮人少數ヲ混ス）ハ其數二百餘ニシテ步兵一〇五聯隊中ニ獨立シテ編成セラレ又「ダウリヤ」ニモ鮮人約二百、支那人約四五百歩兵第一〇六聯隊ニ編入セラレタリ

知多及「ダウリヤ」ニ於テハ尚依然支那人鮮人ノ募集中心ニテ最近浦塩方面ヨリ知多ニ向ヒ鮮人ノ集り來ルモノ多シ

三、蒙古ハ派兵

四月以來「ボルジヤ」ヨリ露支「グリヤ」ト人續々入蒙中ナリシカ四月二十七日頃ヨリ移動ヲ中止ス、入蒙セシ兵ハ前述義勇兵ナルヤ或ハ後貝加爾方面ニ於テ新ニ募集セシ兵ナルヤ或ハ其混合セルモノナルヤ不明ナリ其兵力ニ於テ不明ナラサルモ千名内外ト言フ報アリ

四、桑貝子ハ武器ノ輸送

陸軍

ポルジャヨリ四月下旬桑貝子ニ兵器ヲ輸送シ又五月初庫倫ヨリ機関銃二十、迫撃砲ヲシキモノ六
其他彈藥到着セリ

五、浦塩ニ於テモ支那義勇兵編成

最近浦塩ヨリ来哈セル者ノ談ニヨレハ目下浦塩ニテハ支那人ノ義勇兵募集中ニシテ雇傭條件良好ノ為應募者既ニ七、八百名ニ達セリ

右義勇兵ハ簡單ナル訓練ノ後黑龍鉄道ニ依リ後貝加爾方面ニ輸送ノ予定ニシテ蒙古語ヲ解スル者ヲ特ニ優遇ス

陸軍

機密公文五三三号

昭和二年五月五日

在奉天

吉田總領事

田中大臣宛

時向ニ對シテ談片報告ノ件

奉天派ノ一部時向ニ對シテ各地智軍器參謀藏式穀ノ
為館河野刻領事ニ致セテ談片要領如左

左記

一最近労働政府ノ赤化策トシテ西路回ハ馬五祥ヲ
援助シ安國軍ニ肉迫レ奉天派顛覆ヲ計劃
シテアリトノ説ハ全ク一種ノ宣傳ニ過キス目下知多ク

外務省

不
機

(美濃半裁野紙) 國納

060

滿洲里官ニハ約ニ箇師團露兵散在セルモ右ハ露
國ノ東三省ニ對シテ軍力示威ニ過キス
輓近蒙古
ハ東三省邊疆ハ極メテ靜穩ナリ奉省政府ト
シテハ三省ノ边防ハ吳俊陞ハ張煥相ニハ全責任
ヲ委スルカ方ナリ右西智軍ハ奉省ヲ以テ
ニ遣ハレ警備調査ニ努メテアリ

(美濃半裁野紙) 國納

061

外務省

改平局

612A.20

亞細亞局

第一課甲

(己號用紙)

本機密第一三一號

昭和貳年五月拾六日接受

昭和二年五月九日

在齊齊哈爾

領事

清水八百



外務大臣男爵 田中義一殿

國境方面警戒ニ關スル件

國境方面ノ警戒等ニ關シ督軍公署參謀長カ本月七日小官ニ語レル所左ノ如シ

國境方面視察ノ爲メ督辦公署ノ梁、張ノ兩參謀ヲ先日海拉爾、滿洲里方面ヘ派遣シタル處本月六日歸還報告スル所ニ依レハ滿洲里ニ於テハ「ダウリヤ」方面ニ當リ時時砲聲聞ユルニ付人ヲ派シ取調ヘシメタルニ以前ヨリ同地ニ駐屯スル砲兵聯隊カ射撃演習ヲ行ヒ居リタルモノニシテ別ニ最近ニ増兵セラレタル模様ナカリシトコトナリ

滿洲里河國境方面平穩

在齊齊哈爾日本帝國領事館

(己號用紙)

〔「ダウリヤ」駐屯兵數ニ付テハ本年四月十八日附在滿洲里田中領事發本省宛往電第一六號參照〕

桑貝子方面ニハ外蒙兵ニ千進出シ來リ居レリトノ情報ニ接シ居レルモ同方面ニハ青草未タ成長セス途中馬糧無キ爲メ偵察者(騎馬ニテ)ヲ派スル能ハス追テ青草ノ出ツルヲ俟テ偵察ヲ試ムル考ナリ
滿洲里ニハ軍隊少キニ付治安維持ノ爲メニ當地第十八師ヨリ近日中ニ騎兵二箇營ヲ同地ニ派遣スルコトトナリ目下馬糧等準備中ナリ但シ右ハ最近ニ至リ滿洲里方面ニ不穩ノ形勢現ハレタリト聞フニハアラス同方面モ至極平穩ナリ

黑河方面モ亦極メテ平穩ナリ云云

右報告ス

本信寫送附先

在支公使

奉天、哈爾濱、

吉林各總領事

滿洲里、

長春、鄭家屯各領事

關東廳

在哈爾濱安藤中佐

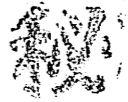
在齊齊哈爾滿鐵公所

在齊齊哈爾日本帝國領事館

063

062

電信寫



六七四七 暗

北京 本省

五月十二日後着

情一

田中外務大臣

第五三五號

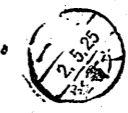
(露支國境露軍増員ノ新聞電報ニ關スル件)

貴電第二六六號ニ關シ (情報部ヨリ問合せ)

本件聯合通信ハ滿洲里駐在富永武官ノ報告ニ基キ當館附陸軍武官
室カ發表セル處ニ依レルモノナリ

芳澤公使

064



情報課長殿

洮公情第四五號

第一課 甲

昭和二年五月十二日

洮南公所

哈拉哈方面赤軍侵入説

最近探聞セル所ニヨレハ哈拉哈旗内ニ相當多數ノ赤軍侵入シ居レリトノ風説アリ昨日張鎮守使ニ面會之カ真否ヲ糾シタルニ張鎮守使モ右風説ヲ是認セリ同地人一部黑龍江省内ニアルモ外蒙ノ勢力圈内ニ屬シ南ハ東烏珠穆沁旗ト境ヲ接シ東南ハ山一ツ越ユレハ索倫ニ通ス同旗内ノ温泉「ハロンアルシャン」



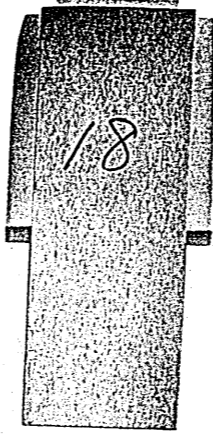
附近ノ小屋ニ多數ノ赤軍駐屯シ居ルヲ見タルモノアリト云フモ真否ノ程確ナラス同温泉附近ニ右小屋ノ存在スルヤ否ヤモ有無ノ兩説アリテ判定ニ苦シム次第ナリ疑ニ喧傳セラレタル赤軍爲旗侵入説ニ比較スレハ多少根據ヲ有スルモノノ如クナルモ詳細ナル情況判明セス右風説ヲ事實トスレハ其策動期ハ充分草ノ伸ヒタル一ヶ月後ナルヘク東烏旗ヲ通過シ洮南ニ出ツルモノト索倫ニ出テテ洮南ニ來ルモノト二路アルカ何レモ大軍ノ行動ニハ困難ナリ當所ハ鎮守使側並駐洮參謀本部員ト協同極力右風説ノ真否探查ニ努メツツアリ

(了)



南滿洲鐵道株式會社東京支社

寫送付先
 大藏理事 東京支社長 庶務部長 鐵道部長 調査課長
 高柳囑託 哈爾濱事務所長 各公所長(四)
 奉、鐵、四、長各地方事務所長
 奉天日下公館 鄭家屯中野領事 四平街憲兵分遣所長
 奉、長警察署長 四洮由利會計處長 洮昂大藏顧問



支那の
支那の

支那の

支那の

昭和二年五月十四日 接受

昭和二年五月十四日

在吉林

總領事川越 茂



支那の
支那の

支那人の露者對之執照完給停止命令滿洲
本仲之關之當館牒報者之通報ニ依リハ本月九日
林省長公署ハ哈爾濱護路總司令部ヨリ滿洲里
駐紮哈爾濱護路司令梁忠甲ノ報告ニ依リハソウエ
トト側ハ現下支那人無職業者及匪賊ヲ招募シ
軍隊ヲ編成シ軍事教育ヲ實施中ナリ其ノ既教育

在吉林日本帝國總領事館

者ヲ不日密ニ東支沿線及東三省内ニ潛派シ赤化宣
傳ニ從事セシメ今後露支形勢悪化セハ或ハ便衣隊
トナシ其地方擾乱ヲナシハハ計畫ヲ立テ漸次其ノ
魔手ヲ擴ケツアルカ如ク而シテ最近哈爾濱方面
ヨリ滿洲里方面ニ移動ス支那人一日二百名ヲ下ラ
ス實ニ我國ハ隱憂ニ係ル問題ニシテ必ス根本的
辦法ヲ講スルニ要アリ惟ツニ自今支那人ノ出境護
照發給ヲ停止シ暗中防衛ヲ加フハ辦法ナレハ尚緩
クハ河駐紮軍隊報告依リハ近來支那人ノ露者多
數アリト云フトハ通報ニ接シテハ以テ本月十日哈爾
濱交際員及國境各縣知事ニ對シ大要ヲ密電ヲ發
スルナリ

支那人ノ露及過境均之ヲ自今具案給テ停止ス

030

068

但之行政官吏及領事カ公務ノ爲ニ露國ニ赴
スルハ此限ニアラス
右何等御参考ト追報告申進ス
以上
正信篤送付先 在支公使、奉天 哈爾濱

在吉林日本帝國總領事館

060

069



歐米局

612A.22

亞細亞局

機密公筆ニ。四號

昭和貳年五月貳六日 接受

別紙添付

昭和二年五月十九日

在吉林

總領事 川越

茂
吉林
總領事

外務大臣男爵田中義一殿

吉林省於ル對露防備軍ノ編成ニ關スル件

本件ニ関シ滿鐵吉林公所長ヨリ別紙ノ通リ通報

アリ右寫一部送付ス

本信寫送付先 在支公使 奉天 哈爾濱 閩島

長春

在吉林日本帝國總領事館

第一課甲

たか中佐

070

吉林省於ケル對露防備軍、編成
 瀋江鎮守使兼護路軍哈綏司令丁超瀋江道
 尹蔡運升及吉長鎮守使陳玉崑、張（作相）
 督辦、日電ニ依リ去ル拾日來省滯在中ナリ
 が昨十三日張督、岌哈ト共ニ任地ニ向テ出發セリ、
 右首腦者ヲ召電シテ對露防備隊ノ編成ニ関ス
 ル會議ノ結果畧ハ左記ノ如ク決定セリト云フ

一、東部赤防軍

司令 丁超
 副司令 趙芷香
 駐屯地 綏芬鐵嶺河一帶
 所屬隊

第十八旅 旅長 丁超（哈爾濱現駐）

第二十一旅 旅長 趙芷香（寧安現駐）

第十五旅 第三十六團 團長 劉漢武（一面城現駐）

二、哈爾濱一帶、警備

第十六師 騎兵 第十七旅 旅長 常群橋

三、東支南部線、警備

第八旅 十四團 團長 楊登舉（伊通縣現駐）

補充旅（山林警備隊、改編セル）旅長 趙維楨

以上

次官

亞細亞局長



參事次官

參事

19

田代事務方欄 梓紙

最近露支國境方面ニ於ケル勞農軍隊ノ動靜ニ關スル件

(昭和二年五月末調)

北京勞農大使館搜索事件ニ依リ露支兩國ノ關係緊張スルト共ニ勞農軍隊ノ國境集中說等種々ノ風説流布セラルルニ至リタル處勞農側ニ於テハ之ヲ否定シ支那ニ於テ何等敵對的計畫ヲ有セス國境ノ勞農軍隊ハ從來通ナリトシ又支那側ニ於テモ現在ニ於ケル勞農側ノ内情ハ到底對支出兵ヲ許サスト多寡ヲ括リ國境方面ニ對シ一應ノ警戒的措置ヲ講シタル以外ハ積極的ニ行動ヲナシタル模様ナク要スルニ國境方面ハ一般ニ平穩ナルカ如ク認メラルル處最近露支國境方面ニ於ケル勞農軍隊ノ動靜ニ關シ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ左ノ如シ

(一) 國境方面ニ於ケル勞農軍隊ノ配備狀況

外務省

072

1、ザバイカル方面

最近ザバイカル方面ノ勞農軍隊ノ配備狀況ハ地方的小移動アリタル外格別ノ變化ヲ認メ得サルカ如キ處同方面主要地點ニ於ケル配兵狀況ニ關シ昭和二年二月二十五日在哈爾濱陸軍々事委員ノ調査セルモノト五月初在滿洲里領事館ノ調査セルモノヲ比較對照スルニ別紙ノ通ナリ

2、沿海州方面

昭和二年四月末支那側軍隊ノ得タル情報ニ依レハ沿海州ニ駐屯セル勞農兵力ハ

(イ) 浦潮一個師團

(ロ) ニコリスク歩兵一個聯隊(内二個中隊ヲハバロフスクヘ配置)

(赤梓紙)

外務省

073

變更ス)

イイマン、步兵二個中隊
騎兵一個中隊

ハバロフスク、步兵一個聯隊
騎兵一個聯隊 (内二個中隊ヲニコリスクヘ配置
變更ス)

ニシテ與地ヨリ更ニ増派ノ模様ナシト云フ

(二) 勞農義勇軍ノ東方輸送説

最近露都ニ於テ支那行義勇兵ヲ募集セリトノ情報アリタル處四月
上旬約一週間ニ亘リ連續シテ毎夜露都ヨリ約三百名ノ義勇兵ラシ
キモノ (武器ヲ携行セス) 東方西伯利亞方面ニ向ケ出發シ其總數
約二千名ニ及ヒタルカ右義勇兵ハチタニ約一千名ボルチヤ及ダウ
リヤニ約七百名到着セル趣ニシテ更ニ之等ハボルチヤ方面ヨリ外

(赤
梓
紙)

074

外
務
省

(赤
梓
紙)

075

蒙古ノサンベースニ輸送セラレタルヤノ報道アルモ明ラカナラス
尤モ四月中ボルチヤヨリ露支ブリヤード人續々入蒙シ其數約千名
ニ達シタル趣ノ情報アル處右ハ果シテ前記義勇兵ナリヤ或ハザバ
イカル方面ニ於テ新ニ募集セシ兵ナルヤハ不明ナリ

(三) 支那人義勇軍編成説

本年ニ入り支那勞働者ノ滿洲里ヲ經テ入露セル者多數ニ達シタル
カ勞農側ニ於テハ四月中旬チタ、ダウリヤ附近ニ於テ公然支那人
義勇兵ヲ募集セル旨ノ報道アリ (其后モ引續キ募集中ナリト云フ)
支那官憲ニ於テモ入露支那人ノ赤軍參加ヲ悞レタルモノニヤ四月
十四日支那人ノ入露ヲ禁止セル由ナルモ入露支那人ノ一部ハ既ニ
赤軍ニ勤務セル趣ニシテ(イ)チタニ於テ編成セラレタル支那軍隊(鮮

外
務
省

別紙

ザバイカル方面配兵表 (機ハ機關銃 自ハ自動銃)		地名	チタ
外務省	五月初現在在滿洲 里領事館調査	賓陸軍調査	第十八軍團司令部
		同上	第三十六師團司令部
		同上 機ハ 兵ニ〇〇 ハ	步兵第百五聯隊 オレンブルグ、コサツ ク聯隊 兵六〇〇 機 四
備考	イルクウツ クニ在リ	野砲兵大隊 (二中隊)	輕砲兵大隊兵ニ五〇 砲 八

(赤枠紙)

077

人少數ヲ混ス) 其數約二百餘名ニシテ步兵第一〇五聯隊中ニ獨立シテ編成セラレ(口)ダウリヤニモ鮮人約二百支那人約四、五百步兵第一〇六聯隊ニ編入セラレタル趣ナリ
尙浦潮方面ニ於テモ支那人義勇兵募集中ニシテ雇傭條件良好ノ爲應募者多キ趣ナル處右ハ簡單ナル訓練ノ後ザバイカル方面ニ輸送ノ豫定ナリト云フ

(赤枠紙)

076

ウエルフネ ウジンスク		飛行機	二
騎兵旅團	兵 一六〇	機	一六〇
歩兵第三一聯隊	兵 一五〇〇	機	四八〇
技術聯隊			
騎砲兵中隊	三吋砲 六		
重砲兵大隊	砲 兵 二〇〇		
輕砲兵大隊	砲 六		
徒歩砲兵中隊	砲 兵 一四〇		
クウバン騎兵旅團 ルスキイ聯隊		同上	同上
第三一混成特務聯隊	兵 一〇〇〇		
工兵聯隊	兵 一五〇〇		
同上			

外務省

(赤枠紙)

081

野砲兵大隊 (二中隊)	砲 一五〇	第三五クウバン騎兵聯隊	砲 一五〇
裝甲列車一隊		野砲兵大隊 (二中隊)	砲 一五〇
裝甲列車		第三ゲベウ隊本部	騎兵 四五
チタ裝甲旅團		リ朝引換ス	
ニシテオロ		間國境迄來	
ビヤンナヤ		備ニ任シ夜	
國境ノ警		間國境迄來	
リ朝引換ス		間國境迄來	
アルゴン河		上ノウオ	
ツルハイツ		イヨリ蒙古	
境上ウリザ		河迄警備ス	
チタ裝甲旅團		ヤンカヨリ	
ニシテオロ		四月パスチ	
ビヤンナヤ			
國境ノ警			
備ニ任シ夜			
間國境迄來			
リ朝引換ス			
アルゴン河			
ツルハイツ			
イヨリ蒙古			
境上ウリザ			
河迄警備ス			

外務省

(赤枠紙)

080

外務省

市ゲペウ隊 兵 六〇	ゲペウ騎兵隊 兵 一〇〇	
國境飛行隊 三機	國境騎兵隊 機 八〇	砲兵大隊 砲 一〇

(赤
枠
紙)

084

